

いたみ文化・スポーツ財団

第4次経営計画

心と体をうごかすって、楽しい。
人とつながるって、おもしろい。

令和6(2024)年3月

公益財団法人
いたみ・文化スポーツ財団

目次

1. 経営計画策定にあたって	1
(1) はじめに	1
(2) 計画期間	1
2. 経営理念	2
(1) ビジョン	2
(2) スローガン	2
(3) 経営信条	3
(4) 職員行動指針	3
(5) SDGsへの取り組み	3
3. 現状と課題	4
4. 基本計画	5
(1) 文化芸術、生涯学習、自然科学、スポーツの振興	5
① 重点施策	5
ア. 魅力ある施設の運営について	5
イ. にぎわいづくりについて	6
ウ. 次世代育成について	7
エ. 生きがいと健康づくりについて	8
オ. 広報戦略について	8
② 各施設での取り組み	9
③ 財団全体での取り組み	13
(2) 経営基盤の強化	13
(3) 組織体制の構築	14
(4) 人材育成と働きやすい職場環境の構築	14
5. 成果指標	15
6. 今後の収支計画	16
7. 前計画の取組状況	17
8. 資料 計画の策定経過	20

1. 経営計画策定にあたって

(1) はじめに

公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団は、平成4年2月12日に財団法人伊丹市文化振興財団として設立されました。その後、平成22年7月に「公益財団法人」へ移行、平成25年度から伊丹市昆虫館を加えました。

平成29年4月には、公益財団法人伊丹スポーツセンターと統合を果たし、現在の「公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団」として、芸術・文化、生涯学習及びスポーツの振興に関する事業を更に拡充してきました。

令和2年には、全世界的に猛威を振るった、新型コロナウイルス感染症の影響により臨時休館や事業の中止、制限を余儀なくされました。しかし、コロナ禍によって、文化芸術、生涯学習、自然科学、スポーツは市民が充実した生活を送るために「必要不可欠なもの」と改めて認識する機会となりました。

令和4年4月に新たにオープンした市立伊丹ミュージアム(I/M アイム)は、当財団と公益財団法人柿衛文庫との運営共同事業体という形で指定管理を受託し、これまでの文化・芸術及び歴史に関する資料の収集、保存、展示、調査研究に加えて、「まちのにぎわい創出」を設置目的とした施設としてスタートし、注目を集めています。

当財団が管理運営する施設のうち、市立伊丹ミュージアム及び伊丹市立生涯学習センターは大規模改修工事を行い、市民のニーズを取り入れた、生活に生きがいと潤いを与える場としてリニューアルされました。

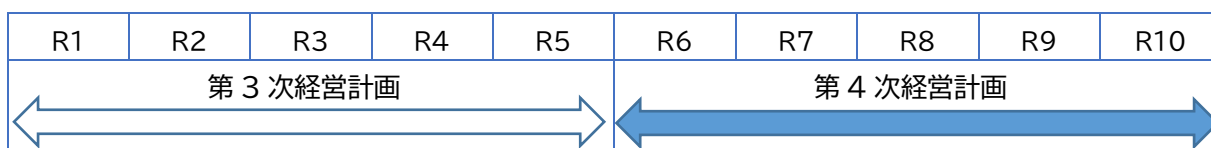
一方、その他の施設では、建設から30年を超える建物も増えてきており、今後、伊丹市の改修計画への対応も課題の一つとなっています。

様々に変わりゆく社会情勢やデジタル化、危機管理面などの情報を注視し、公益財団法人として社会的な役割を果たすとともに、指定管理者として伊丹市民の生活に欠かせない、当財団ならではの「多様な専門性」を最大限に活かした、市民の「まちの広場」として親しみのある事業実施に取り組みます。

(2) 計画期間

第4次経営計画の計画期間は、以下のとおりとします。

令和6(2024)年4月1日～令和11(2029)年3月31日(5年間)



2. 経営理念

(1) ビジョン

公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団定款第3条¹に基づき、第4次経営計画の財団のビジョンを次のとおり定めます。

文化芸術・生涯学習・自然科学・スポーツを通じて
人とまちと未来をつなぎ、
にぎわいあふれる「まちの広場」を実現する。

多種多様な施設を管理運営する財団として、文化芸術、生涯学習、自然科学、スポーツ（以下、「文化・スポーツ等」と表記する。）の各分野を通じ、市民が心豊かに健やかに暮らし、笑顔と活気に満ち溢れ、まちのにぎわい創出の一助となることを目標とします。また、各施設の専門性を活かし、すべての市民が気軽に参加・来館できるような施設を目指し、人と人がふれあい、つながり、交流できる「まちの広場²」の実現に向け尽力します。

(2) スローガン

心と体をうごかすって、楽しい。人とつながるって、おもしろい。

文化・スポーツ等による様々な体験を通じ、心と体を動かすことで、新しい興味や発見が生まれ、成長につながることを楽しんでほしい。そして、「楽しい」という感動を通して人と人がつながる。様々な人とつながることで、楽しさや喜びを分かちあうことができ「おもしろい」と感じてほしい。そんな願いがこのスローガンに込められています。

1 定款第3条 この法人は、伊丹市における芸術・文化、生涯学習及びスポーツの振興に関する事業を行うことにより、市民の文化意識の向上及び健康の増進を図るとともに、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的とする。

2 広場 「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の前文において、「劇場、音楽堂等は、人々の共感と参加を得ることにより『新しい広場』として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。」とある。

(3) 経営信条

財団のビジョンを実現するため、次の経営信条をもって財団運営を行います。

- ① 人とまちと未来をつなぎ、にぎわいあふれるいたみの「まちの広場」の実現に向けた事業を展開します。
- ② 市民にとって、安全・安心で利用しやすい施設を目指します。
- ③ 職員それぞれの能力を活かし、心も体も健康で、安心して働ける職場環境をつくれます。

(4) 職員行動指針

下記の職員行動指針に基づき、職務に取り組みます。

- ① 私たちは、笑顔と丁寧な対応を心がけ、市民に信頼される職員を目指します。
- ② 私たちは、職務に責任を持ち、たえず学び、新たなことに挑戦します。
- ③ 私たちは、快適に利用いただける施設運営に取り組みます。
- ④ 私たちは、職員同士のコミュニケーションを大切にし、連帯感を持って職務に取り組みます。

(5) SDGs への取り組み



持続可能な開発目標（SDGs）とは、国際連合によって、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標として17のゴールが掲げられています。

当財団では、文化・スポーツ等の事業活動を通じて、関連の深い下記の4つの目標を中心に取り組みます。



【3.すべての人に健康と福祉を】

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



【4.質の高い教育をみんなに】

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



【11.住み続けられるまちづくりを】

都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする



【15.陸の豊かさも守ろう】

森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

3. 現状と課題

(1) ポストコロナにおける事業の展開

令和元年から、世界的に猛威をふるった「新型コロナウイルス感染症」の感染状況がようやく落ち着き、まちや人の動きが活発になってきた一方、密となる人混みを避けたり、夜の外出を控えたりと、市民の生活スタイルはコロナ前と比べ大きく変化しました。市民の行動の変化を注視し、ポストコロナにおける事業展開が課題となっています。

(2) 人材育成

財団設立以降、順次管理施設が増加したことにより、職員数は増加しましたが、次第に職員の加齢が進み、年齢構成のバランスを欠くこととなっています。

「財団の最大の資源は人材である」という考えのもと、財団運営を意識した職層研修や各種制度等に関する研修を実施し、財団全体の組織体制の強化・充実を図る必要があります。

(3) 財務状況

昨今の光熱水料費の急激な高騰は、財団経営にも大きな影響を及ぼしていますが、コロナの感染状況は落ち着き始め、事業収入や貸館収入は回復傾向にあります。

今後も不測の事態に備え、経営の安定化を図るうえにおいても、事業・貸館による収益だけでなく、国の補助金や助成金の獲得、寄付等を募ることにより、運営資金の確保に努めることが求められます。

(4) 施設保全

老朽化しつつある施設について、適切な修繕・改修工事計画が求められています。文化会館、音楽ホールなど各館の大規模改修工事について伊丹市と協議を行い、適切な期間と内容を設定する必要があります。

〈第3次経営計画期間の改修済み施設〉

・令和3年4月 生涯学習センター(ラストホール)
リニューアルオープン

・令和4年4月 市立伊丹ミュージアム(I/M〈アイム〉) オープン

(5) 演劇事業の展開

伊丹市から演劇ホールの運営について大きな方針転換が示されたことで、これまで演劇ホールが培ってきた演劇事業を、伊丹市の文化施策にかかる指針に沿って、どのように展開するかが課題となっています。

また、演劇事業を展開するにあたって、演劇関係者やスタッフとの関係性の維持も今後の課題です。

4. 基本計画

(1) 文化芸術、生涯学習、自然科学、スポーツの振興

① 重点施策

A. 魅力ある施設の運営について

施設をより身近に魅力的に感じてもらえるとともに、誰もが利用しやすい施設にするため、一層の環境整備を進め利用者拡大を図ります。

また、今後も様々な市民のニーズに応える多様なプログラムや施設間連携事業を行い、財団全体として多角的な魅力を発揮します。

a. 文化・スポーツ等が身近に感じられる事業展開

各施設の設置目的及び財団の定款に定める事業内容を踏まえ、市民の生活の中に文化・スポーツ等が身近なものとして感じられる事業を展開します。

b. 利用しやすい施設の取り組み

授乳室やおむつ替えシート、多目的トイレの場所などの案内表示等を見直すことで、子育て世代や高齢者、障がい者など幅広い層の市民が、利用しやすいユニバーサルデザインの施設となることを目指します。

また、Wi-Fi 設置エリアの拡大やキャッシュレス決済など、市民の利便性を向上する環境整備を伊丹市と調整しながら進めることで、利用しやすく親しみやすい施設を提供します。

c. 連携事業の強化、推進

施設間で情報交換を積極的に行い、職員全体が互いの取り組みをより認識し、相互に協力して事業を行います。

「生演奏でラジオ体操」、「演劇ホールで昆虫鑑賞」のような異種の施設連携による事業を今後も継続

することで、新たな魅力を引き出し、相互の施設を訪れることがなかった人が様々な事業等に参加できるきっかけづくりとします。

d. 自主事業への取り組み

公益法人として、市民サービスの向上を目指し、指定管理業務以外の独自事業として、魅力的かつ社会のニーズに応えた自主事業を推進します。

e. 事業実績評価

実施結果について、評価シートによる自己評価を行い、目的・目標に対する結果や成果、課題、来場者の声などを常に検証し、PDCA サイクルでその後の事業展開に活かします。また、地域連携事業の評価手法について、検討を行います。



地球音楽プログラム（伊丹アイフォニックホール）

イ. にぎわいづくりについて

伊丹市総合計画(第6次)「にぎわいと活力のあるまちの実現」に寄与するべく、土壌となる多様な文化的コミュニティや活動を支援し育みます。

a. 新たなコミュニティの育成

イベント来場者同士のサロンや交流会など、出会いの場を創出します。

また、伊丹ミュージアムをはじめ、財団管理施設が横断的に連携・協働した事業に積極的に取り組むことで、文化的な既存コミュニティの新たな展開を支援します。これにより地域コミュニティや各施設利用者の循環・流動化を促進し、新たなコミュニティを育み、回遊性を高めることを目指します。

b. 世代を超えたコミュニティづくり

地域コミュニティと連携して、子どもたちが高齢者など上の世代から学べる機会を提供し、また大人も次世代の感性から学び、互いに刺激や喜びを感じられる世代を越えたコミュニティづくりに取り組みます。

c. 「にぎわい³⁾」の土壌を育み、未来へつなげる

「キッズフェスいたみ」、「鳴く虫と郷町」、「伊丹オトラク」など、コミュニティ間の連携・協働を促し、市内の回遊性を高める事業を数々実施してきました。今

後もこれらの事業をはじめ、コミュニティが様々に集い、人の流れを生み出す事業に取り組むことで「にぎわい」の土壌を育み、未来へとつなげます。

d. 「にぎわいづくり」の取り組みを発信

デジタルマーケティング⁴⁾の技術を活用し、「にぎわいづくり」の取り組みを効果的に発信していきます。



鳴く虫と郷町

3 本計画策定のワーキンググループにおいて「にぎわい」の定義について考えが示された。いたみ文化・スポーツ財団では、多様なコミュニティが集い、連携・協働した結果、中心市街地だけでなく市内各所で、人々の活発なコミュニケーション・交流が、一過性のものでなく持続して行われている状態を「にぎわい」と定義する。ここでいうコミュニティは、文化・スポーツ等を目的にするものに限らず、また新旧や大小を問わないが、個人の価値を尊重しながらも伊丹市のまちづくりなど「公」に対して開かれたという意味で「公共」的なものを指す。それらは、一人ひとりの興味関心の違いに応じた豊潤で持続可能なコミュニケーションを育み、心身ともにより充実して生きるための場を醸成する。従って私たちは、大きなにぎわいを生み出すために、文化・スポーツ等を通して、その土壌となる多様なコミュニティ、あるいはその萌芽となる活動を包摂し、支援し、育む。そのようなコミュニティ内においてあるいはコミュニティ同士が集い連携・協働して様々なまちの活動に参加する場において、市内外の人が、豊かで持続可能なコミュニケーション・交流を活発に行うことで、交流人口となり(伊丹をもっと好きになり)回遊性が向上するなど、街や人が活気づいた状態を「にぎわい」とする。

4 WEB サイトやブログ・メール、SNS などのデジタル技術によって、多様化する市民ニーズの動向等を把握し、分析などを行う手法のこと。

ウ. 次世代育成について

「心・体を動かし、自分なりの楽しみを見つけ、個々の可能性を拡げる」ことは、次世代を担う子どもたちが社会の中で自分らしく成長し、生きるために重要です。

私たちはその実現のための機会を創出し、文化・社会教育施設の役割を果たすとともに、地域社会に貢献します。

a. 居場所・活動の場づくり

財団各施設の専門性を活かして、子育て世代に向けた親子参加型公演や、夏休みの各種講座・ワークショップなど、子ども向け事業を充実させます。そして家庭や職場・学校とも違う、自分らしく快適に過ごせるサード・プレイス（第三の場所）の施設として親しまれるよう、次世代の居場所づくりや活動の場を育みます。

b. 文化・スポーツ等に触れる機会の提供

誰もが文化・スポーツ等の機会を享受できることは、多様な学びや心身の成長に欠かせません。家庭環境によって文化・スポーツ等の体験に差がでる「文化格差」を生むことが無いよう、企業や団体と協力し、社会貢献活動の一環として、若年層に対する支援事業に取り組みます。

c. 学校園との連携強化

心身共に成長する子ども・若者に対し、様々な文化・スポーツ等に触れる機会を提供するため、学校園へのアウトリーチ事業や市内中学生の「トライやる・ウィーク」、大学生・専門学校生のインターンシップの受け入れなどを引き続き積極的に行い、次世代の育成に努めます。部活動の地域移行については、情報を収集するとともに動向を注視し、支援する体制を検討します。

d. 文化の保存・伝承

私たちは文化を通じて過去から学び過去の蓄積という連続性の上に、現在を生きています。財団が保管している文化資料や郷土資料をはじめ、地域に残る行事などの活動記録を収集・保存・伝承し、地域のレガシー（遺産）を守っていくことで、次世代を担う子どもたちへの愛着の醸成に繋がっていきます。



キッズフェスティバル

エ. 生きがいと健康づくりについて

人生100年時代の現代において、誰もが生きがいをもって健康で共に助け合いながら地域生活を送れるよう、生涯学習とスポーツを通じてコミュニティの活性化と市民の健康づくりを推進します。

a. 生きがいづくり

生涯にわたって主体的に学び、それらを生かして様々な分野で活動することで、豊かな人生となるよう、生涯学習活動を通じた生きがいづくりの機会を提供します。また、学習した成果を発揮する場や同好の趣味、ボランティア活動などを介して集まるコミュニティの醸成に努めます。

b. 幅広い世代の健康づくり

厚生労働大臣認定「運動型健康増進施設」であるスポーツセンターや、フィットネスジムを有する生涯学習センターを中心に、子どもから高齢者まで幅広い世代の健康意識を高め、日常生活の中に運動習慣を取り入れることで、活力ある生涯スポーツ社会の実現と健康寿命の延伸に貢献します。



すっきり健康体操講座

オ. 広報戦略について

現代社会においては一人ひとりの価値観や生き方が多様化し、またデジタル環境下において情報発信の手法はさらに多様化・複雑化しています。そんな状況の中で、より効果的な広報活動を行うためには「戦略」を立てることが不可欠です。財団全体として長期的・持続的な視点からの広報活動に取り組み、財団の存在意義を広く市内外にアピールし賛同を得るための仕掛けをつくっていきます。

a. 広報マネジメントの確立

・ 基本指針の策定と広報ガイドラインの制定

財団の経営理念のもとに広報活動の基本指針を策定し、あわせて多様化・複雑化する情報発信に対応した広報ガイドラインを制定して、個人情報やプライバシーの保護、多様性に配慮した広報マネジメントを確立します。

・ 財団全体の広報活動

各施設の広報活動を包括し、財団としての情報発信を担う役割について検討するとともに、広報の効果測定のための指標や仕組みづくり、指標に基づく新たな戦略の打ち出しなど、長期的・持続的な視点から広報戦略を立案していきます。

b. 財団の認知度向上

各施設の認知度に比べ、これらを管理運営する財団本体が十分に認知されているとは言えません。

今後も市民から指定管理者として親しまれるためには、認知度向上が必要です。

・ 魅力・特色(専門性)をPRする

多彩で魅力ある各施設の事業等の実施について、デジタルツールを活用してPRします。

また、施設間の連携によるイベントを恒例化することで、財団ならではの魅力・特色を強く打ち出していきます。

・ 財団のファンを増やす

「鳴く虫と郷町」や「キッズフェスいたみ」のような市民参加型のイベント事業を推進し、施設間での連携を強化することで、様々なジャンルの魅力を市民に伝え、財団のファンを増やしていきます。また、市内事業所・商店・飲食店と協力し市民にとって有用な情報を届けていきます。

② 各施設での取り組み

ア. 伊丹市立文化会館(東リ いたみホール)

東リ いたみホール



- ・市民の文化芸術活動の拠点施設として、幅広い文化芸術分野に対する取り組みを行います。
- ・特に、未来を担う子どもたちの感性を育むことを目指し、親子を対象にした鑑賞型事業や、アウトリーチ

など学校との連携に注力していきます。

- ・中心市街地にある市内最大の文化施設として、集客力のある公演事業により、まちのにぎわいづくりに取り組んでいきます。
- ・これまで企画事業に来場する機会の少なかった人や、多様な市民に対して、SNS を用いた広報活動を展開しアプローチを図ります。
- ・財団が管理する施設とも連携し、他ジャンルとのコラボレーションによって新たな来場者層の獲得を目指します。
- ・施設の効果的な活用とともに安全に利用できるよう適切な施設の維持管理を行います。

イ. 伊丹市立演劇ホール(アイホール)

AI・HALL



- ・これまでの現代演劇を主軸とした事業展開から、地域のニーズを鑑みて、まちや市民との連携・協働、及び財団施設間の連携事業に積極的に取り組みます。

・そのうえで演劇ホールとして、次世代の表現者を育成する人材養成事業や、子どもから高齢者までを対象にした普及啓発事業を中心に、市民の舞台芸術に対する興味関心を喚起し、地域振興に寄与することを目指します。

・公演事業に関しては、イベントホールの新しい利用料金プランを提案することで、市民に対して質の高い公演を誘致すべく演劇・ダンス団体に積極的にアプローチをかけ、市域のにぎわい創出の一助となるよう推し進めていきます。

ウ. 伊丹市立音楽ホール(伊丹アイフォニックホール)



・響きの良いメインホールの特性を活かした様々なジャンルのコンサートや、世界の民族音楽を紹介する地球音楽プログラムをはじめ、各種音楽教室や講座事業を通して、音楽あふれる豊かな暮らしを市民に提供していきます。

・502席という中規模のメインホールは、ピアノや吹奏楽などの発表の場として使いやすく、大人数の練習や発表会にも利用可能な小ホール、リピーターの多い練習室と共に、多くの市民に利用され地域の音楽活動の拠点となるよう取り組みます。

・また、事務局を担う伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団、伊丹市民オペラ公演実行委員会、コーラスグループ連絡協議会のほか、市内の音楽愛好家の活動支援やレベルアップにも注力し、さらに若年層も含めた幅広い世代の市民に対するアプローチを拡充することで、新たな利用者増加と音楽文化の普及に努めます。

エ. 市立伊丹ミュージアム(I/M)



・清酒発祥の地というプライドと、母体となった美術館、工芸センター、伊丹郷町館、博物館、柿衛文庫の五つの文化施設の長年の歩みが涵養してきた伊丹の文化的土壌をふまえ、「酒と文化の薫るまち」に相応しい歴史・文化・芸術の総合的な発信拠点として、多彩な芸術文化を市内外に広く発信していきます。

・さらに、美術、工芸、歴史、俳諧俳句という多様な分野にわたる意欲的な展示や講座、イベントはもちろん、文化財である旧岡田家・旧石橋家住宅や日本を代表する作庭家による日本庭園の活用にも積極的に取り組みます。また、デジタルミュージアム事業を充実させるとともに、観光・集客拠点としての魅力向上にも力を注ぐことで、中心市街地における回遊と、まちのにぎわいづくりに貢献していきます。

・財団の各施設をはじめ、地域の店舗や教育機関、行政や市民団体と協働・連携を強化しながら、伊丹の、私の、みんなのミュージアムを目指し名付けられた「I/M(アイム)」という略称のもと、伊丹ミュージアム自体が「ヒト」「モノ」「まち」をつなげるハブとして機能することで、伊丹に新しい活力と魅力を生み出す存在となることを目指し、より活動を充実させていきます。

オ. 伊丹市立生涯学習センター(ラストホール)

伊丹市立生涯学習センター
ラストホール



・生涯学習センターは、令和3年4月に用途が固定化していた貸室を多目的に使用できるようにレイアウトや設備等を変更し、魅力ある施設に生まれ変わりました。

- ・事業では、「講座事業」、「鑑賞事業」、「市民参加事業」、「地域協働事業」、「フィットネス事業」の5つを事業の柱に展開します。市民が知識やスキルの習得をはじめ、思考力を磨くことで、新たな価値観を生み出す「居場所」となるよう取り組みます。
- ・またサークル活動などにより、様々な「繋がり」を重視し、市民の出会いの場となるよう、生涯学習活動を推進します。
- ・オンラインでの講座やミーティングなど、デジタル技術を活用した事業展開を図り、社会教育・生涯学習の活動範囲を広げ、新たな機会の創出について積極的に取り組んでいきます。

4. 基本計画

カ. 伊丹市立図書館南分館



- ・ラストホール1階に位置する図書館南分館は、市民生活を支えるため、図書資料の収集・整理・貸出・蔵書案内などの基本的なサービスの充実と利用しやすい環境づくりに努めます。
- ・図書館を利用していない層にも、読書の楽しみや本の面白さを伝えるため、財団他施設の多彩な事業に関連した図書を紹介するなど、多様な蔵書を

活かした連携事業に取り組んでいきます。

- ・また、本と人との出会いだけでなく、本を通した人と人との出会いの場となる「広場」の役割を持つ図書館を目指し、ボランティアグループとのさらなる協働により、地域に根差した事業を積極的に行います。
- ・さらに、国際社会共通の目標であるSDGsに関する図書をおはなし会や展示で取り上げるなど、様々な世代に訴求し、社会課題を自らの課題として捉える感性を育む一助となるべく努めます。
- ・あわせて、図書館からの発信をより多くの市民に伝えるために、SNS等での情報発信を充実させ、市民と本との多様な出会いを創出していきます。

キ. 伊丹市昆虫館

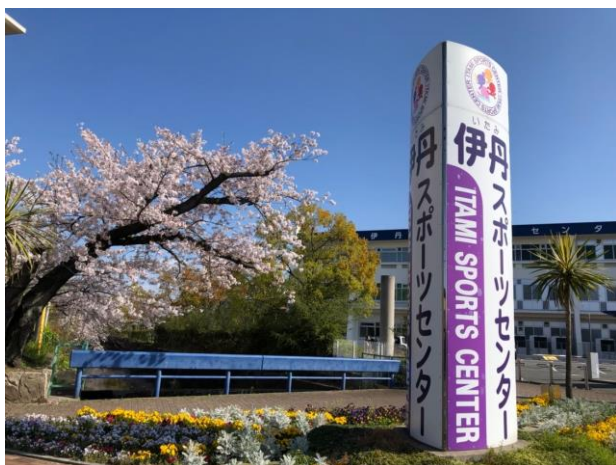


・生きた昆虫や標本などで昆虫の魅力を伝える常設展示やオリジナリティにあふれた企画展示をはじめ、希少な昆虫の生息域外保全事業や収集保存・

調査研究事業、また他施設や地域との連携事業や、多彩な教育活動、友の会との交流や生涯学習支援等の一層の充実をはかります。これら、自然環境学習や生物多様性に関する活動を通じて、学術文化の振興に寄与します。

- ・また、次世代に引き継ぐ収蔵資料の整理・公開をすすめると共に、活用できる目録化を図ります。
- ・出張事業やデジタルミュージアム事業等により、来館が困難な人でも昆虫に触れたり、身近に感じることが出来る機会の提供に取り組みます。
- ・SNS やフリーペーパー、研究報告等、デジタルとアナログの両面で情報発信も強化していきます。

ク. 伊丹市立伊丹スポーツセンター



・伊丹市におけるスポーツの拠点として市民の健康増進を図るとともに、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的に、スポーツの振興に関する事業を行います。

・厚生労働大臣認定健康増進施設として、スポーツ

を通じた健康増進により健康長寿社会の実現を目指します。

- ・国の第3期スポーツ基本計画及び伊丹市スポーツ推進計画を念頭におき、スポーツ実施率の向上、子ども・若者のスポーツ機会の充実と体力向上、スポーツによる地方創生・まちづくり、障がい者スポーツの推進、スポーツに関わる人材の育成と活躍の場の確保等、地域スポーツ環境の構築に力を注ぎます。
- ・また、どこでも手軽にスポーツを実施してもらえるよう、デジタル技術を活用し、ストレッチの動画配信などを行うことで、健康に興味がある人を増やしていきます。
- ・公園機能を併せ持つ施設として、外出機会の増加、コミュニティ強化などを図ることを目指します。

③ 財団全体での取り組み

ア. 大阪・関西万博

2025年大阪・関西万博の開催に向けて、伊丹市と連携し気運の醸成を図り、各種事業の実施を通じて都市ブランドを高めるとともに財団をアピールします。

イ. 30周年記念事業

令和6年度、コロナ禍により見合わせてきた財団創立30周年記念事業を職員による提案に基づき実施することで、市民から財団への興味関心が高まるように努めます。

ウ. DX(デジタルトランスフォーメーション)推進

財団のDX推進計画に基づき、利便性の高い利用者サービスの実現及び職員が働きやすい環境の構築並びに事務の効率化と法令改正への対応に取り組みます。

エ. 施設保全

文化会館や音楽ホールなど、伊丹市で計画されている大規模改修の対象施設も管理運営していることから、施設の利活用のあり方を提案できるよう、改修に向けて検討を進めます。

また、日々の点検や小修繕では、長年の施設運営のノウハウを活かし、伊丹市と協議しながら、効率的な施設保全に努めます。

(2) 経営基盤の強化

財団は、伊丹市と連携し、文化・スポーツ等に関するサービスを展開する公益法人として、実績や信用を高めている反面、財政面では市への依存度が高い状況が続いています。これまでの事業展開を継続し、新たな課題に取り組むためには、今後の収支計画を立てることは極めて重要であり、自主・自律的な発展や不測の事態への備えを確保するため、以下の取り組みを行います。

① 貸館利用料の確保

利用時間の延長や利用条件の緩和、利用しやすい料金プランの提案など、稼働率の向上と利用料金の確保に努めます。また、伊丹市と協力しキャッシュレス決済を導入することで、貸館利用の促進を目指します。社会情勢を注視し、伊丹市の条例規則により定められている施設使用料の見直しについて、必要に応じて市と協議します。

② 寄付・協賛金・助成金等の獲得

公益事業に関する事業実績などの周知、PRを積極的に行い、個人からの寄付や市内外の企業・団体のCSR(企業の社会的責任)活動の受け皿として、協賛金等の獲得を目指します。また、文化庁等の助成金獲得実績のノウハウを活かし、幅広くファンドレイジングに取り組みます。

③ 内部管理経費の削減

複数施設を管理運営する財団として、スケールメリットを活かせる委託業務や消耗品の購入など、経常経費の縮減に取り組みます。また、デジタル化や業務の最適化を進めることで、事務の効率化を図り、時間外労働の縮減に努めます。

(3) 組織体制の構築

伊丹市では、「活力とにぎわいのあるまちづくり」を進めており、財団としてその実現に向け取り組む必要があります。そのためには、様々な角度からの事業展開が必要であり、施設を超えた魅力ある事業に取り組める組織体制を構築し、財団の魅力を発信していきます。

① 事務局組織の検討

積極的な施設間連携や市内他団体などとの協働事業を展開しやすくするための組織を検討し、より連絡調整がしやすい体制を整えます。

② 施設共通業務の統括

施設の修繕や保守点検などの施設管理業務や情報発信、施設内のデジタル推進など全施設共通の業務について、財団全体の担当を統括する役割について検討します。

③ 危機管理体制の整備

南海トラフ地震への備えや近年多発しているゲリラ豪雨などの自然災害、緊迫する国際情勢による人的災害など、様々な有事を想定し、危機管理マニュアル等を更新します。また、有事の施設運営や事務局組織体制について、随時見直しを図ります。

(4) 人材育成と働きやすい職場環境の構築

財団の最大の資源は人材であることを認識し、人材育成基本方針に沿って将来を見据えた計画的な人材育成に取り組みます。

また、職員が能力を最大限発揮し、やりがいを感じながらいきいきと働くことができるような職場環境の構築を目指します。

① 人材育成

財団の専門性を維持し、持続可能な経営を行うために、優秀な人材を確保し、適材適所の配置を行います。また、能力を最大限発揮できるよう、上司と職員がコミュニケーションを充分に図り、キャリア形成の支援を行います。

また、専門的な知識や技能の向上を図ることができるよう、研修制度を充実させます。

② 働きやすい職場環境の構築

職員の誰もがやりがいや充実感を持って働きながら、健康で豊かな生活が送れるよう、良好なワークライフバランスの実現に取り組めます。

常に労働基準法等の法令厳守を意識し、健全な職場環境をつくります。また、特定の職員に仕事が偏ることなどが無いよう適切な業務の配分を行うと

ともに、休日労働や時間外労働を必要最小限となるようにし、職員が健康でいきいきと働くことができる職場づくりを行います。

計画目標として、休日労働を含めた時間外労働の縮減について、次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画」で示すとともに、その達成に向け、進捗管理を行います。

職場でのパワーハラスメントやセクシャルハラスメントなどを防止するため、研修等により啓発するとともに、相談窓口を周知し、ハラスメントのない職場づくりを行います。

5. 成果指標

基本計画（重点施策）の達成に向け、以下の成果指標を定めます。

(1) 各施設間による連携事業数

「重点施策 ア.魅力ある施設の運営」にかかる指標
施設間連携した件数

R4 年度 47 件 ⇒ 計画期間終了時 57 件

(2) 「キッズフェスいたみ」、「鳴く虫と郷町」、「伊丹オトラク」の参加者数

「重点施策 イ.にぎわいづくり」にかかる指標
上記3つのイベントの参加者数（※「鳴く虫と郷町」は、財団各施設が主催の関連イベント参加者数）

R5 年度 31,462 人 ⇒ 計画期間終了時 33,000 人

(3) 若年層を対象とした取り組み件数

「重点施策 ウ.次世代育成」にかかる指標
若年層（概ね 18 歳以下）を対象とした事業等の取り組み件数

（R6～10 年度）新規 取り組み累計件数 20 件

(4) 生きがいと健康づくり事業への実参加者数

「重点施策 エ.生きがいと健康づくり」にかかる指標
生きがいと健康づくりを目的とした継続する事業の実参加者数

R4 年度 6,728 人 ⇒ 計画期間終了時 7,100 人

(5) 財団ブログの発信数

「重点施策 オ.広報戦略」にかかる指標
財団ブログの年間発信数

R5 年度(2/1 時点) 41 件 ⇒ 計画期間終了時 100 件

6. 今後の収支計画

本計画に基づき、財団運営を進めていきますが、収支見通しにあたっては、伊丹市と協議、調整を要する事項や施設の大規模修繕の時期など、明らかになっていない部分が多くありますので、現時点での想定において、5年間の収支計画を作成しました。

計画中に上記事項等により、財団財務状況に影響を与えることが想定される場合には、それらの内容や期間等が明らかになった時点で収支を見直すものとします。

(単位:千円)

		R3 (決算)	R4 (決算)	R5 (現計予算)	R6 (予算)	R7 (計画)	R8 (計画)	R9 (計画)	R10 (計画)
事業活動収入	事業収入	147,241	228,157	227,678	237,344	240,192	243,074	245,991	248,943
	利用料金収入	247,339	308,650	293,004	296,191	299,745	303,342	306,982	310,666
	受託事業収入(指定管理料)	682,176	752,389	824,367	845,017	858,115	871,416	884,922	898,639
	補助金等収入	121,223	107,413	98,569	88,818	90,195	91,593	93,012	94,454
	その他収入	810	1,324	1,548	484	1,000	1,500	2,000	2,000
	事業活動収入計	1,198,789	1,397,933	1,445,166	1,467,854	1,489,247	1,510,925	1,532,909	1,554,702
事業活動支出	事業費支出	156,596	225,741	247,773	277,560	278,948	280,343	281,744	283,153
	施設管理受託事業費支出	917,613	1,020,263	1,107,043	1,115,519	1,118,752	1,130,127	1,141,646	1,153,310
	(人件費)	525,481	543,338	561,007	569,565	578,108	586,780	595,582	604,516
	(物件費)	392,132	476,925	546,036	545,954	540,644	543,347	546,064	548,794
	管理費支出	91,417	96,069	116,628	115,376	102,888	103,402	103,919	104,439
	事業活動支出計	1,165,626	1,342,073	1,471,444	1,508,455	1,500,588	1,513,872	1,527,309	1,540,901
事業活動収支差額		33,163	55,860	△ 26,278	△ 40,601	△ 11,341	△ 2,947	5,599	13,801
投資活動	投資活動収入	10,561	0	4,581	25,083	0	0	8,000	0
	投資活動支出	14,350	12,488	4,727	6,760	15,000	4,500	4,800	12,000
投資活動収支差額		△ 3,789	△ 12,488	△ 146	18,323	△ 15,000	△ 4,500	3,200	△ 12,000
予備費支出		0	0	90	90	90	90	90	90
当期収支差額		29,374	43,372	△ 26,514	△ 22,368	△ 26,431	△ 7,537	8,709	1,711
前期繰越収支差額		127,147	156,521	199,893	173,379	151,011	124,580	117,043	125,752
次期繰越収支差額		156,521	199,893	173,379	151,011	124,580	117,043	125,752	127,463

※事業活動収入

- ・事業収入、利用料金収入は年 1.0%~1.2%増
- ・受託事業収入(指定管理料)は年 1.55%増

※事業活動支出

- ・事業費支出は、前年度比で物価上昇等 0.5%~1.5%増
- ・施設管理受託事業費支出は、前年度比で 1.4%増(人件費 1.5%~1.9%増、物件費 0.5%増)

※投資活動収支

- ・職員の定年退職に伴う退職金の支払い及び引当金積立に伴う影響額

7. 前計画の取組状況

第3次経営計画において実施することとした事業等の達成状況については、以下のとおりです。

事業項目	実施状況	説明
基本計画		
①伊丹市における文化芸術、生涯学習、スポーツの活性化		
(ア)文化芸術がそばにあるまちへ向けた取り組み		
低廉な料金での公演や作品の提供、アウトリーチ、施設間をまたいだ事業	達成	宝くじ文化公演、小学校への「大阪交響楽団アウトリーチ」、版画ワークショップなど、市民が気軽に参加できる企画を実施
著名なアーティスト、劇団の企画事業の誘致、注目度の高い事業の実施、各種コンクールの実施、誘致	達成	「平原綾香ライブ with 平原まこと」「劇団四季」公演、平田オリザ主宰「青年団」や「オリンピックコンサート」を実施し、「関西合唱コンクール」を誘致
市民等と協働、連携し中心市街地の活性化	達成	中心市街地の回遊性を高める「鑑賞de寄っつく! itami」をはじめ、伊丹ミュージアム旧石橋家住宅内カウンターを活用した郷町〇店などを実施し、市民協働・まちなかのにぎわいを創出
文化都市伊丹のアピール	達成	酒蔵を活用したバロックコンサートや伊丹大使のライブなどにより都市ブランドを発信
(イ)次世代を担う子どもたちの育成事業の充実		
子ども、親子に観る聴くを経験できる事業の実施、市内どこでも文化芸術に親しめる体制整備	達成	「あしながチケット」の試行、「夏休み自由プール」、昆虫館のイオンモールなどへの出張展示など、子どもや親子で参加できる企画を実施
プロによる指導、ワークショップ、体験プログラムの実施	達成	演劇ワークショップ、版画ワークショップ、スポーツセンター「親子体育」など体験会を実施し、文化芸術やスポーツに触れる機会を創出したほか、インターンシップを受入
(ウ)生きがいと健康づくり事業の拡充		
各種ボランティアの育成と世代交代の促進、地域住民との協働事業の拡充	達成	伊丹オトラクサポートメンバー、鳴く虫と郷町、キッズフェスいたみの開催にあたり、市民協働によるボランティア機会を創出
出前スポーツ講座の実施	達成	体組成計測定会、体力測定、親子教室など、スポーツ施設に留まらない健康事業を実施
(エ)情報発信の強化		
SNSなど活用、文化施設とスポーツ施設間での異なる利用者層へのアプローチ	達成	SNSなどを活用した情報発信を積極的に行い、文化施設での健康体操や体力測定、「キッズフェスいたみ」での昆虫館・図書館南分館ブースなど、異文化体験ができる企画を実施
②財団における文化芸術、生涯学習、スポーツ各施設の方向性		
(ア)個別施設の状況・方向性		
文化会館		
施設の効果的な活用と市民文化拠点施設としての適切な施設の維持管理	達成	高校総合文化祭など全館を利用する貸館提供、動画配信用に貸出LANを配備し、楽屋トイレの洋式化など改修を実施
演劇ホール		
市内中学、高校でのコミュニケーション教育や地域と連携した企画、学校へのアウトリーチ推進	達成	「トライやる・ウィーク演劇講師派遣」、「兵庫県立伊丹高校 演劇講師派遣」他
音楽ホール		
新たな視点での事業展開(市内音楽愛好家のレベルアップ、中高生対象プログラムの拡充、育成団体との協働事業等)	達成	「PLAY! AP企画」、伊丹シティフィルハーモニー管弦楽団・伊丹市コーラスグループ連絡協議会との連携事業

事業項目	実施状況	説明
伊丹ミュージアム		
旧 美術館 より親しまれる企画展の開催、コレクションの活用推進	達成	「ヨシタケシンスケ展かもしれない」、「小牧源太郎 生きとし生けるもの」、「鹿児島睦 まいにち」展 他
旧 工芸センター 暮らしの中にある工芸というライフスタイルの提案による施設未利用者層へのアプローチ	達成	アトリエを活用した「工芸実技講座」、「チャレンジ！1日体験教室」、「伊丹ジュエリースタジオ」や伊丹工芸クラブ会員による「伊丹クラフトフェア」の実施
旧 みやのまえ文化の郷 施設内掲示の多言語化、観光の中心的役割、資料の整理・保存、アウトリーチ事業の実施	達成	4カ国語表記、日本遺産に関する展示、郷町〇店等カウンター事業、所蔵品や酒蔵の文化財資料の公開と解説、蔵の音事業、版画ワークショップ 他
生涯学習センター・図書館南分館		
同好会等の育成・支援、市民が学び、つながり、活躍するライフステージの提供	達成	地域グループ育成、「こども寺子屋」、「社会教育施設三館連携事業」、他施設事業と関連した図書の展示 他
昆虫館		
虫や自然環境を楽しく学ぶ展示・講座の開催、生物多様性の市民支援拠点施設	達成	チョウ温室、常設展示・特別展、自然観察会、「放チョウ体験」など体験イベント、「生物多様性交流フェスティバル」他
スポーツセンター		
スポーツセンター事業に関心の薄い年齢層やスポーツ種目に対するアプローチ	達成	運動型健康増進認定施設としての関連事業「からだ☆らぶ」他、親子体験「キッズフェスいたみ」他
(イ)財団全体としての方向性		
専門性を活かした事業実施と、新しい価値を創出する事業実施	達成	「鳴く虫と郷町」、「キッズフェスいたみ」、財団設立30周年事業プレイベントを実施し、財団ならではの事業を展開
(ウ)施設の保全と改善		
改修計画の実施による適正な維持管理と保全	達成	中長期計画に基づく改修、照明設備のLED化などを実施
みやのまえ文化の郷、生涯学習センター、図書館南分館の適切な工事の施工とその後のスムーズな運営	達成	伊丹ミュージアムR4.4月、生涯学習センター・図書館南分館R3.4月リニューアルオープンし、円滑に運営
③財団の組織体制と人材育成の強化、充実		
(ア)人材の確保、充実		
正職員、嘱託職員、キャリアスタッフの割合の増。正職員16.2%、嘱託職員14.4%、キャリアスタッフ4.7% (H30.4/1時点)	達成	正職員22%、嘱託職員15.4%、キャリアスタッフ2.7% (R6.1/31時点)正職員、嘱託職員の割合は増加。キャリアスタッフは大規模改修による休館や定年による退職等により減少
正職員、嘱託職員割合を1/3以上とする	達成	正職員、嘱託職員割合1/3以上達成(R6.1.31時点38.5%)
(イ)組織体制の強化		
館長、副館長は正職員とし他に正職員を1人以上配置	達成	昇級や配置換により任命
業務の効率化とワークシェアの実施	未達成	施設の大規模改修等による事務増大により時間増
同一職場に長期配属職員の人事異動	達成	概ね実施
専門職への位置付けを検討	未達成	検討中
(ウ)研修機会の充実	達成	公立文化施設協会や地域創造などの専門研修への参加、オンライン研修の運用開始
(エ)連絡調整会議の開催		
各施設、市、関係団体の連絡調整会議の実施	達成	所管課長を含めた定例施設長会議やまち未来(株)エリアマネジメント・空港にぎわい課会議への参加、鳴く虫と郷町運営会議の実施
(オ)職員の士気向上のための制度導入	達成	財団人材育成基本方針を作成し、職員評価制度を検討 職員の内部表彰を実施
④財団の経営基盤の安定、強化		
内部留保金を事業費、管理費等の30%程度以下に維持	達成	内部留保金を維持、OA機器整備・周年事業を積立金で実施予定
(ア)インセンティブ制度導入に向けての検討	未達成	運用等について財団内部で協議し、市と調整

改定版(R4.2.12)

事業項目	実施状況	説明
財団を取り巻く現状と課題の変化への対応		
①コロナの経験とアフターコロナに向けた取り組み		
動画配信やリモート事業、SNSを活用し情報発信	達成	動画配信、SNS 他 リアルタイムでの情報発信を実施
②リニューアルした生涯学習センター		
地域活動団体、グループと連携、社会教育施設とのオンラインを活用した連携	達成	中央公民館・きららホールとの連携事業、オンライン事業を実施
健康増進に関する事業や講座、イベントの見直し	達成	「姿勢改善」、「健康フェスティバル」他
幅広い層の新規利用者の獲得	達成	改修後、多目的ホール、各多目的室 他 新規利用者増加
③伊丹ミュージアムの運営形態と事業運営		
酒蔵、文化財資料を活かした日本酒にまつわる事業実施	達成	座談会「SAKEがデザインする縁」、「旧岡田家&旧石橋家住宅特別公開～元館長スペシャルツアー～」ほかを実施
④演劇事業の継承		
文化3施設のコンテンツ再編成	達成	懇談会などで演劇事業のあり方を協議し、演劇ホールで音楽イベントを実施したほか、演劇講座を文化会館で開催
変化に対応した基本計画の見直し		
①施設間連携		
財団ならではの連携の取り組み	達成	施設間やまちなかで専門性の高い事業を実施し財団をアピール
②広報戦略		
SNS、動画配信、オンライン会議の活用	達成	財団HPのブログにて事業の様子をレポートするほか、各施設でSNSを活用した情報発信を展開
SNSの運用や仕掛けづくりの研究	達成	文化会館や音楽ホールでキャラクターを用いたSNS運用を実施
③組織体制		
DXの取り組み	達成	DX推進計画(R5.2月～R8.3月)を策定し、職員のWiFi環境を整備 オンライン研修の運用開始し、電子決裁、キャッシュレス決済、労務管理システムの運用設定に着手
組織体制や雇用形態の見直し	未達成	広報や施設管理などの施設共通業務のマネジメント部門や働き方改革に伴う労働条件等の見直しを検討
計画目標		
①利用者満足度の向上 (H29)85.1%⇒(R5)90%	未達成	実績 (H30)87% (R1)89.4% (R2)88.3% (R3)92.4% (R4)89.7%
②施設利用者数の増加 (H29)144万人⇒(R5)158万人	未達成	実績 (H30)154万人 (R1)135万人 (R2)56万人 (R3)91万人 (R4)130万人
③人材確保と充実 正職員・嘱託職員の割合(H30.4/1)30.6%⇒(R5)33.3%	達成	実績 (H31.4/1)30.9% (R2.4/1)37.7% (R3.4/1)47.0% (R4.4/1)39.5% (R5.4/1)38.1% (R6.1/31)38.5%

8. 資 料

計画の策定経過

第4次経営計画の策定にあたっては、多くの財団職員の声を反映したものとするため、若手・中堅職員を中心に施設を超えてワーキンググループを設置し、ビジョンやスローガンなど基本計画の重点施策を検討しました。そこでの意見を参考に、策定委員会で検討を重ねました。検討の中で出された様々な意見については、今後の財団運営に生かせるように取り組んでいきます。

- 《策定体制》
- 策定委員会(理事長、常務理事、参与、施設長、グループ長 13名)
 - ワーキンググループ(一般職員、嘱託職員 5グループ 21名)
 - 事務局(5名)

2022年8月25日	ワーキンググループ会議 以降、2023年1月まで5グループにより計31回開催
10月20日	第1回策定委員会
12月15日	第2回策定委員会
2023年1月12日	第3回策定委員会
2月16日	第4回策定委員会
3月4日	理事会
3月16日	第5回策定委員会
4月20日	第6回策定委員会
5月11日	第7回策定委員会
5月18日	第8回策定委員会
6月3日	理事会
6月18日	評議員会(経過報告)
7月20日	第9回策定委員会
7月31日	第10回策定委員会
8月17日	第11回策定委員会
9月18日	理事会
2024年1月18日	第12回策定委員会
2月15日	第13回策定委員会
3月2日	理事会
3月17日	評議員会

いたみ・文化スポーツ財団第4次経営計画

公益財団法人いたみ・文化スポーツ財団

令和6(2024)年3月

